

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771400914		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ラ・アケソニア		
所在地	箕面市白島1丁目19番3号		
自己評価作成日	R4年11月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季を通して日課の外気浴。利用者の個性・要望を生かした個別ケア。旬の食材を意識した及び話題性のある多彩なメニューを利用者と共に作る昼食づくり。本人主体の個室。庭に出やすい間取りによる畑作りや外でのレクリエーション。2匹の猫が利用者の邪魔をせず共生している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業主体は医療法人で、「愛」「共感」「奉仕」を理念として、DNA運動(全ての職員が自らの仕事の価値と意味を理解し課題を見つけ、自ら解決に取り組むこと)を展開し、クリニック、老人施設、保育所を開設している。法人は研修会や資格取得の推奨を通して、職員の育成、資質向上に尽力している。当該事業所は、平成17年に介護老人保健施設とリハビリステーションとを併設して開設され、法人傘下の施設間連携により、利用者・家族の要望に応じて対応することが可能である。また、母体のクリニックや看護師の職員配置などで利用者・家族に安心感がある。コロナ禍においても、庭の草木の鑑賞や菜園での野菜作り、家族面会を抗原検査導入で再開、日々のレクリエーションや昼食作りなど、職員相互の話し合いと連携により利用者個々のきめ細やかなケア体制が整っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に繋がっています。今年の入職者には随時説明と体現にて理解できる環境作りに努めています。	法人理念とは別に職員が話し合い「懐かしの思い出に寄り添いながら、潜在の力を共に喜び、家族参加型の実践を目指します」を事業所サービス目標(理念)として作成し、玄関と職員室に掲示している。半年毎に行う個人面談の際には、理念やサービス目標の復唱やシートへの筆記などで振り返りを行い、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属し地域行事の把握に努め、神社のお祭には代表の職員が出席している。民生委員様とお話できる機会もあり、交流下さっています。法人内の保育所の園児との交流もある。	自治会に加入し、回覧板、民生委員、自治会役員、運営推進会議などから地域情報を把握している。コロナ禍で、参加していた地域行事が中止になっているが、近くの神社への年2回の奉納や各種募金活動の協力、近隣住民への挨拶などを心掛け、日常的な交流に努めている。現在法人内の「地域貢献委員会」で地域との繋がりを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等の支援方法あり方を再検討中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度書面で取り組み、返信用にてご意見を頂いています。市からの通達によりZoomや事業所内開催の方法も検討中です。	会議は、利用者、家族、民生委員、自治会運営委員、地域包括支援センター職員、箕面市職員、管理者が参加し、2か月毎に開催(現在は書面会議)している。資料は入居状況、事故報告、運営状況、今後の予定、利用者の様子を撮った写真集、ご意見シートの資料を送付(全家族含む)し、寄せられた意見は次回の会議で報告し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域福祉課 地域密着・総合事業グループ担当者様に大変お世話になり相談させて頂き、有難い関係性を感じております。3か月に1度のグループホーム連絡会参加も有難い時間です。	市の広域福祉課とは、日常的に事業所運営状況の報告や各種手続き(指定の更新書類作成や各種資料作成)を相談し、指導を受けている。3か月毎に市が開催するグループホーム連絡会に参加し、同業者との情報交換を行うとともに、「健康長寿フォーラム」「認知症安心声掛け訓練」の開催の支援などにより協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で全職員が考え行動する意識を高めています。現場でのスピーチロック発言はその都度表現方法の改善策を共有しています。	「身体拘束適正化の為の指針」及び「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、毎月供設施設と合同で「身体拘束防止対策委員会」(虐待防止対策含む)を開催している。年2回研修会を開催し、身体拘束ゼロを目指し実践に繋げている。また、スピーチロックなど不適切な言動があれば、都度職員が話し合い適切な対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	転職してきた職員に対して重点的に指導する機会が多く、勤続年数の長い職員と確認しながら修正・指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている家族もおられる。日常生活自立支援事業の制度を必要とされる利用者・家族への働きかけを行うよう確認します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明している。理解・納得されるよう経過、状況により随時連絡し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議書面だけでは不十分と思われるので、窓越し面会の前後に職員が直接家族に話しかけ、話せる時間を持つよう努めています。利用者には日常生活において話題にし尋ねています。	利用者は日常のかかわりの中で、家族は面会時や運営推進会議などで、意見、要望の把握に努めている。コロナ禍では面会を制限したが、現在は抗原検査の実施やオンラインなどで面会を再開している。家族へ毎月送付する暮らしの様子を撮った写真や、2か月毎の利用者の様子を伝えるメッセージは、家族から安心と感謝の声が寄せられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者のADL変化に伴い、業務優先順位の改善策を検討する事例も有り、意見を出し易い環境作りに努めている。毎月の定例会でも意見を出せるようにしている。	管理者は、常に職員へ声をかけるように心掛けており、毎月の定例会議や年2回の自己評価シート作成時の個人面談でも意見、要望の把握に努めている。定例会議に欠席する職員は、管理者のレターボックスを利用して意見・要望を届けるようにしている。利用者の安全確保のために職員の早出時間を30分早める変更など、意見反映の例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	表情等から変化を察し話せる場を持てる様努めている。半期毎に自己評価シートを提出して頂き、面談の際は素直に表現出来る場面をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの特性を生かし向上出来る様働きかけている。業務時間内のZoom研修も参加出来る様業務を交代する事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会への参加許可されており、市立病院主催の研修にも受講出来ている。グループホーム連絡会参加やEメールにて意見交換出来ている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止め、入所初期にどう寄り添うかを観察しながら声掛けを行っている。本人のペースを把握する上で見守る時間を多く取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多職種連携の支援であることを説明し、少しでも不安要素があれば話して頂く様お願いしている。個別ケアである事を伝え、本人の生活歴や好み等細かく話して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーに同席して貰い、簡潔に表現し支援につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活として出来る事を行って頂き、感謝の意を職員が表現しています。一緒に笑える時間が少しでも多くあるよう、日々幸せを感じて過ごせる関係で有りたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちを尊重し、相談やお気づきの点を話して頂けるような関係づくりに努めており、助言を頂く事もあります。家族参加型であることを職員が周知しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策としての取り組みの中で、本人の馴染みの方との交流の橋渡しや、写真・お便りを送付する事を継続して今に至っています。(教会の方、お坊さん、友人、甥御様等の面会有り。)	利用者の多くは入居期間が長く、勤務年数の長い職員も多いので、馴染みの人や場所は共有化できている。コロナ禍でも知人、友人から面会の要望があれば予約制(人数を制限)で抗原検査を行って受け入れ、手紙や電話の取次ぎなどで関係を継続するようにしている。毎年数人のメッセージを綴ったクリスマスカードを利用者に届ける知人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	発語が難しい方でも自然と手をつなぐ等、非言語コミュニケーションが取れる。自らソファで並んで座りくつろがれる事もある。自然にふるまえる環境整備につとめています。孤立しないで過ごせる点にも職員の意識が高いです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された利用者の家族から連絡下さる事もあり、有難いです。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言を職員で共有し、思いを把握しようと努めている。表情から察する機会も多く、活力となる事柄や話しかけ、関わり方を意識している。本人の気持ちを第一に支援している。	入居時に、詳細に亘り利用者の思いや意向を把握するとともに、勤務年数の長い職員が居室担当職員へ日常的に伝達し共有化している。把握が難しい利用者には、絶えず声掛けしうなずきや顔の表情で把握するほか、家族に確認する場合もある。把握した内容は連絡帳に記入し、全職員が共有して日々のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所期間の長い利用者が多く、本人が話した内容を記憶している職員が生活歴を全職員に伝えている。入所以前の過ごし方や経験を家族から聞くことも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に記載し、その日の状態を把握・共有したうえで残存機能の訓練に繋げている。無理はせず、傾眠が見られた時の臥床時間ももっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員が知り得た情報は共有し反映している。遠方の家族には電話で、面会の方には面会前後の時間にご意見を頂いている。毎月の定例会でサービス担当者会議を設けている。	入居時に、利用者、家族から生活歴や意向を把握し、医師からの助言を得て、長期半年、短期3か月の介護計画を作成し同意を得ている。モニタリングは短期計画に合わせて3か月毎に行っているが、利用者の状態変化や家族からの要望などがあれば都度計画に反映している。サービス内容は日々のケアチェック表と連動して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の定例会で全職員の気づき等意見を出して貰っている。介護記録記入時本人の発言はそのまま記入する様お願いしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、事情を話して頂ける関係を構築し、本人に今何が必要かを柔軟にアンテナを張っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市が発行のオムツ券申請は代行しているが、コロナ禍の対策が優先し資源活用があまりできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前に必ず本人に説明し、家族に報告相談した上で病院を決めている。かかりつけ医、馴染みの眼科・皮膚科に受診することも多い。市立病院等協力医療機関受診となる際も報告の上迅速に対応している。	現在、全ての入居者が協力医療機関をかかりつけ医としている。当該医療機関は法人の経営母体でもあり連携も深い。内科は月2回、歯科は希望者のみ週1回の訪問診療を受ける。他に、外部受診の眼科、皮膚科は家族か職員が付き添う。昼間は事業所の看護師が看護業務を行い、夜間は併設事業所の夜勤の看護師が対応できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日勤務の職場内の看護師に業務中(入浴日も多い)情報共有、相談できる環境であり、優先順位に応じた医療提供となっている。職場内の看護師勤務以外の日は併設の老健看護師が対応できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携室担当者が毎回細やかに対応して下さり、情報共有して貰えます。家族が病院到着が後になる際は、事業所職員が同行し寄り添っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化及び本人の感じる思いは、随時家族へ報告しており、日常生活の中で本人の意向を尊重し確認しながら支援している。ICは納得されるまで、何度も行う事例あります。	重度化した場合の対応について入居時に同意を得る。実際に重度化した場合、「看取りに関する指針」に沿って、医師、事業所、家族間で丁寧な説明と話し合いを行い対応を決定する。昨年も1名看取ったが、状況の紆余曲折の後、可能な限りの介護を尽くし、結果として見送ることができた。その直後の家族のグリーフケアにも関わり感謝された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務に余裕が出た時間帯に、当日勤務者でシュミレーションしている。又不安である職員については、場面による対応を想定して日頃から業務にあたれると落ち着くのではないかと会話している。スタートコールに関しても定期的にシュミレーションしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方、自治会とは連絡体制が取れている。施設近くに住む職員4人が先ず駆けつけることになっている。非常用飲料水、食料は事業所倉庫保管している。	コロナ禍で延期していた避難訓練(夜間想定)を近々消防署立ち会いで実施する予定で、自治会の役員でラ・アケソニア担当の人には連絡をしている。緊急時の連絡網は作成済みで、近隣在住の職員4名がまず出動する。避難訓練を模擬化して日課のレクレーションに取り入れ、避難を身近なものにしたいと管理者は考えている。	現在の避難訓練は火災を想定しているが、それ以外の災害も想定することが必要である。近隣には断層もあるので、地震時の家具などの倒壊を想定してみる、あるいは、事業所が山手にあることから、多量の降雨による土砂崩れにも備えるなど、災害の想定範囲を広げて備えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対して尊重意識した会話を心掛けている。排泄時のプライバシーについては指導することがまだある。	人生の先輩として尊敬できる点を利用者の中に見出した時は、利用者と介護者双方の喜びとなり、介護者自身のやりがいとなると管理者は考えている。用便時に局所をタオルで覆ったところ利用者に喜ばれ、一人ひとりを尊重する工夫をすることの大切さと喜びとを再認識した。呼称は利用者は勿論、職員相互もさん付けを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に聞いてから、行動する習慣がほぼ全職員に定着してきた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの喜びは違うので何が今日の喜びとなるかを、当日勤務の職員で共有しながら意見交換し実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に用意の協力頂き、季節の変わり目の着替えを楽しくおしゃれして頂いている。本人が用意する利用者や、職員と共に選ぶ場合もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL低下から、食器洗いをして下さる時が減っています。お盆拭きや、食事づくりの野菜切り等下ごしらえは複数の利用者がして下さる。	施設内にある厨房で委託業者が調理し、盛り付けは事業所内で主に利用者が行っている。月1回、季節の料理、カレーの日、郷土料理などのメニューもある。職員が企画する「昼食づくり」では鍋焼きうどんなどを楽しむが、利用者は包丁で切るなどの下ごしらえも行う。家庭菜園で収穫したサツマイモも味わって楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に一日の食事・水分摂取量を個別に記載し変化の情報共有に繋げている。体重変化も検討の上、多職種連携し、主治医に上申することもある。指示のもと家族からの差し入れや家族の同意を得たうえで居室担当職員が嗜好品を買い物する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の誘導介助が基本ですが、本人拒否により時間がずれる方もいらっしゃるのが現状です。自立でケア出来ている方も居られるが、声掛けは意識している。訪問歯科を利用しながら助言・指導頂き職員の周知に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛け、誘導は行っているが、本人の意思を尊重し時間が異なる事もある。リハビリパンツから、布パンツに変更した方が複数おられる。	摂取水分量・排泄などは介護記録に記録し、必要な場合は使用済みパッドの重量を計って排泄量を確認している。布パンツ使用の6名以外はパッドとリハビリパンツを利用するが、敏感肌の利用者はパッドを布パンツに当てて使用している。居室でオムツを替える時はカーテンを閉めて行い、閉め忘れがないよう相互に注意を喚起し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排泄に向けての声掛けやトイレ誘導、下肢筋力低下予防の機能訓練を実施し、看護師による排便コントロールは細かく対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜の入浴は便失禁等以外は出来ていないのが現状です。本人の意思を考慮して曜日変更する事はあります。	入浴は週に2回、職員1名が担当するが、必要時にはもう1名が介助に入る。移動、衣服の着脱、身体の洗浄などは、利用者個々の状況に応じて丁寧に支援し、本人の自立を阻まずかつ助長するように配慮している。好みのシャンプーを持ち込む利用者もいる。施設の庭で実をつけた柚子を利用者が採取し、柚子湯として楽しむ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	末端冷え性の方は、入浴後ベット臥床して湯冷め予防の支援を行っている。食後周りに気を遣わず、休息出来る様声掛けを行っている。傾眠見られる方も少しの時間でもベット臥床して貰う時間が取れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職場内の看護師が主となり管理し、変化に随時対応し主治医に上申指示を受ける体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で好み、希望が聞ける会話をゆったりと行っている。笑顔になれる様な支援、活気が出るレクリエーションをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策として外出支援は控えている。施設庭の散歩は外気浴として日課になりすべての利用者対象になっている。家族の協力を得て、受診の為の外出時に箕面の自然をドライブして貰ったりは出来ている。	かつてのような充実した外出はコロナ禍で皆無となったが、施設の庭を歩く外気浴は毎日実施している。歩く長さは個々の状況に合わせて、車椅子でも実施する。コロナ禍が緩んだ一時期、近隣の公園への散歩が実現した。家庭菜園の雑草取りをする利用者が、作業しながら子ども時代の農作業の記憶を話す時は、職員はありがたく傾聴している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方が多い為、以前はお小遣い制であったが必要時事務所立替で翌月請求指定口座引き落としとなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保持されている方、事務所から電話する方、iPad使用しビデオ通話もしている。又動画を送信してご様子を見て頂く事もある。手紙は受け取ることが多く、こちらから出すことは少ない。本人と相談して誕生日等特別な時に家族に渡すことはあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	終日換気を行い、室温調整にも配慮している。食堂は陽光がよく入るので光の調整も出来ている。玄関は四季を感じる花を飾り外気浴の際目につくような空間づくりをしている。	食堂は広く明るい。ガラス戸越しに、利用者が植えた玉葱が育つ家庭菜園が見える。換気には十分配慮し、空気清浄機も稼働させている。食堂と併設事業所との隔壁のドアは施錠していない。イベントを楽しむ利用者の写真で構成した壁飾りや、季節のトピックス(今月はクリスマス)をあしらった大きな月曆と今日の日付を示す文字が壁を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子など配置しており、ゆったりと休めるスペースがあります。仲良く座られる事もあり、下肢挙上して浮腫軽減の為ソファに座られる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者ごとに全く違う模様です。本人の好むものを置き導線に配慮しています。お仏壇や家族の額、写真、生け花の作品、ぬいぐるみ等個性的です。居室にトイレがあるのは良い点です。	居室入り口の名札に取り付けたクリスマス飾りが季節を感じさせる。居室は広めで、クローゼット・洗面所・ベッドそしてトイレまでもが備わっている。仏壇や複数の遺影を持ち込んで入居した利用者は、ここを我が家として暮らしている。職員も共に仏壇に手を合わせるなどして、そのライフスタイルを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りが可能な間取りになっている。自立した生活が送れるように努めている。常に食堂に職員がいて見守れる様安全に配慮して声掛け合っています。		